

事例① 小学生と保護者、地域をつなぐ

はっちーキッズ サバイバル教室 (小平市立小平第八小学校 放課後子供教室)

災害は、いつ起こるかわかりません。登下校時や放課後、休日に地震が起きた場合には、子供たちと保護者、そして地域の方たちとのつながりが、とても大切になります。声を掛け合える地域づくりの機会として、放課後子供教室を中心として実施した事業を紹介します。

放課後子供教室は、学校の余裕教室や校庭等を活用して、放課後や週末、夏休み等に、地域の保護者、高齢者、学生等の参加、協力により「学び」(学習や復習などの活動)、「体験」(スポーツや文化活動)、「交流」(地域の大人や異年齢の子供との交流)「自由遊び」(昔遊びや縄跳び、鬼ごっこ等)などの活動を展開しています。都内では、平成23年度には、51区市町1,005教室及び都立特別支援学校4教室の計1,009教室が実施されました。

小平市立小平第八小学校の放課後子供教室では、絵手紙や茶道、ミニバスケット、野球など、年間に300日以上プログラムを地域の方が協力して実施しています。

今回の「はっちーキッズ サバイバル教室」を実施するに当たっては、親子で楽しく防災を学ぶ「イザ!カエルキャラバン!」を開催しているNPO法人プラス・アーツに企画からの協力をお願いし、放課後子供教室のコーディネーターや、スタッフの方々と事前に数回の打合せを行いました。そして、放課後子供教室の活動や地域行事で防災教育を導入するためのヒントとなるよう、子供も大人も様々な体験ができる機会として実施することになりました。当日の指導を放課後子供教室の関係者や地域の方にさせていただくために、事前研修会も開催しました。

子供たちは、まず、受付でスタンプカードをもらいます。下記の体験コーナーを体験してスタンプを集めると、交換所で「防災キッズマスター認定書」と非常食の五目ごはん、そして緊急連絡カードをもらえます。スタンプカードの裏には、「持ち出し品リスト」を印刷し、家庭での防災につながるよう、工夫しました。

体験コーナー

■ 新聞紙の紙食器づくり

災害時には、食器棚が転倒して食器が割れたり、水道が止まって食器が洗えなくなったりします。避難所でも食器はすぐに揃いません。新聞紙で簡単な食器の作り方を覚えておけば、ラップやビニール袋をかぶせて食器として使うことができます。今回は、コップとお皿を作りました。

スポーツやイベントで麦茶を飲む時に、たまには紙食器を作って飲むようにすると、作り方を忘れないと思う。



■ 応急手当体験

身の回りのものを使った応急手当の体験をします。骨折、直接圧迫止血法、担架搬送を体験しました。

骨折…雑誌や折り畳んだダンボール、新聞紙などを添え木にして、ネクタイや大判ハンカチで縛ります。スーパーの袋を切って、首からかけると手を固定できます。



毛布を使った担架搬送…毛布をそのまま持つと、とても持ちにくいことをまず体験します。次に、両端をくるくる巻いてから持つと、子供6人で人形(消防署からお借りした訓練用人形)を持ち上げて、運ぶことができました。

■ 家具転倒防止ワークショップ

ミニチュアの家具転倒防止キットを使います。転倒防止グッズがない場合には、揺らすとすぐにダンスや本棚が布団の上に倒れてしまいます。ミニチュアのL字金具やポールなどを、どのようにつけると家具が倒れないかを学びます。



ベッドが、ダンスと本棚に囲まれているから、とっても危ないことに気がきました。

■ ランタンづくり

停電で明かりがつかなくなったらどんなことに困るか、まず考えてみてから、アルミの空き缶を使ったランタンを作りました。カッター



やはさみを使いますが、低学年にはカッターを使う段階までは準備しておくなど、怪我をしないように配慮しました。

■ 防災カードゲーム

どちらも10分程度でできるように、2、3問ずつを出題。低学年には難しい問題もありましたが、親子で挑戦してもらいました。



防災カードゲーム「SHUFFLE」

■ SHUFFLE (シャッフル)

「消火器の使い方」や「災害用伝言ダイヤルの使い方」など、1つのテーマごとに、4枚の手順カードを正しい順番に並べ替えるゲームです。

■ なまずの学校

紙芝居形式で出題された、震災で発生する様々なト

ラブルを、アイテムカードを使って解決する方法を考えます。

■ 火おこし体験

火おこし名人の関根秀樹さんに来ていただき、台板の上の軸棒に巻きつけた紐を引いてこすりあわせ、火種を作って火をつけました。低学年も一生懸命に紐を引いて、みんな火をつけることができました。



火をつけたのは初めてだけど、火がとても熱くて驚いた。

■ 起震車体験

小平消防署に協力していただき、震度5と震度7の揺れを体験しました。

事前研修会

サバイバル教室の前週に、当日に体験コーナーを指導する放課後子供教室の関係者や地域の方を対象とした事前研修会を開催しました。



事前研修会 講座

第1部

講座「地震の基礎知識と家庭でできる防災対策について～起こりうる首都直下地震に備えて～」
永田宏和さん(NPO法人プラス・アーツ理事長)
学校にご協力いただき、事前研修会を学校公開の週に設定できたので、第一部は多くの保護者の方にもご参加いただけました。

第2部

体験コーナーごとに指導法を学び、当日の進行を話し合う



防災カードゲーム「なまずの学校」

第二部では、最初に永田さんから「大切な事は、どのコーナーも体験する前に『なぜ、この体験をするのか』を説明すること。そして、子供たちが体験して気付いたことを聞いて、震災が起きる前に準備することで被害を小さくできる、という点を伝えてください。」という話がありました。

参加して「楽しかった」で終わるのではなく、何か一つでも行動につなげるための、大切な「やりとり」。当日は、どのコーナーでもそれぞれに工夫したやりとりがありました。



(上) ランタンの作り方を話し合う
(下) 新聞紙の食器の作り方を覚える

NPO法人プラス・アーツ <http://www.plus-arts.net/>

教育、防災、まちづくり、福祉、環境、国際協力、等の社会の既存の分野において、アートの発想やアーティストの持つ既成概念に捉われない創造力を導入した事業を行い、それらの分野がそれぞれ抱えている課題の解消と地域の活性化に寄与することを目的としている団体で、楽しみながらしっかり学べる新しい形の防災体験プログラムを全国及び海外で展開しています。

このプラス・アーツも参加している「地震イツモプロジェクト」のHP「地震ITSUMO」(<http://www.jishin-itsumo.com/>)には、今回の内容の一部をイラスト中心に説明しているページがあります。